

京都大学地理学談話会

会 報

第 34 号



2023

[目次]

寄稿

頭の中の格子のマス目（小方登）	1
地理学とまちづくり（中川あゆみ）	3
「学問の都」に戻って思うこと（埴淵知哉）	5

2022 年度活動報告

秋季談話会（OB 交流会）	7
春季談話会（論文発表会）	7

研究室便り

地理学専修の動静	8
卒業生・修了生の進路	8
新メンバーの自己紹介	8
大学院生らの研究状況	11
2023 年度講義題目	12
会員からの寄贈図書	13

事務局から

2022 年度会計報告	17
会費納入のお願い	17
訃報	17
談話会担当教員より	17

寄稿

頭の中の格子のマス目

小方 登*

子供のころの思い出を述べたい。小学生の時に法隆寺の金堂壁画の巡回展を観覧した。壁画は不幸にも 1949 年の火災で焼損したが、日本画家らの手で復元されたものが、法隆寺への奉納に先だって展示されたのである。火災の前にカラーフィルムで撮影されていたことが、復元の重要な手がかりになったと説明されていた。貴重な文化財は、永く将来にわたって大切に保存する必要があるのだと、子供心に思った。

絵画を永く保存するにはどうすればよいのだろう。絵そのものも、カラー写真も、時を経れば退色をまぬがれないだろう。絵に規則的な格子のマス目をかぶせ、一つ一つのマス目の色や濃度の情報を拾い、集計用紙に数字で記入する。集計用紙は時を経て色あせても、数字が読み取れる限り、絵の内容は保たれるだろう。格子のマス目を十分に細かくすれば、長期間絵画の内容を劣化を防ぎつつ保存できるのではないか。子供心にそのようなことを考えていた。もうおわかりだと思うが、このマス目というのが今日のいわゆる画素であり、写真などをコンピュータなどで扱うための、デジタル画像の原理を考えていたわけである。

卒論（1980 年）、修論（1982 年）でコンピュータのプログラミングに親しんだが、このときはまだ「計算機」としての利用にとどまっていた。コンピュータにとってグラフィック能力は、例外的で高価な周辺装置であった。そのころからコンピュータの出力装置であるラインプリンターの印字を画素のように使って分布図などを描く試みは行われていたが、本格的な絵を描くことを夢見ていた。

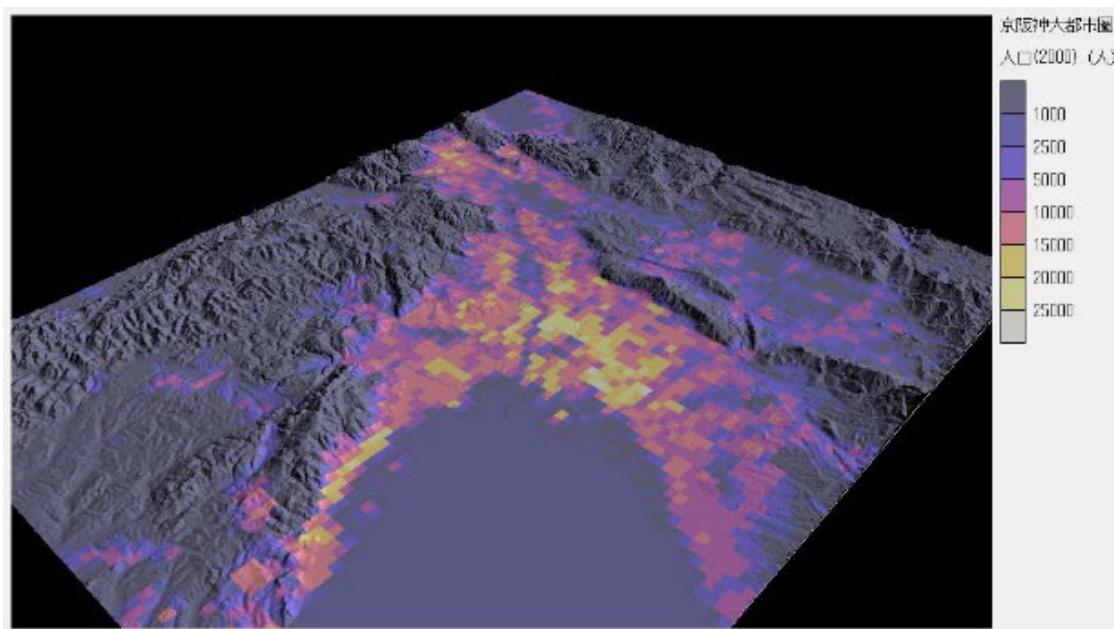
コンピュータの操作体系がまだ文字・数字ベースであったころ、アップル社のマッキントッシュはグラフィカルなユーザー・インターフェイスを備えて登場した。それに合わせてアドビ社からはイラストレーターやフォトショップといった描画・画像処理のアプリケーションが出された。こうしたソフトウェア（とハードウェア）は、貧乏をしても欲しいと思えるくらい魅力があった。大阪日本橋筋のショップで買い求めたフォトショップのパッケージ（形のないうソフトウェアだが豪華な箱に入っていた）を大切に持ち帰ったことを今も思い出す。重要なのは、そのころ写真はフィルムを使って撮影されており、今日のようなデジタル

* 京都大学名誉教授，1980 年卒，1982 年修士

カメラは、まだ影も形もなかったことである。フィルムをデジタル化するスキャナーでさえ一般的ではなかった。それでもフォトショップ開発に関わった人々は、写真がすべてデジタルになる将来を見据えていたわけだ。

コンピュータに「色」を渴望していた時期は過ぎ、パソコンの普及とともにグラフィックの能力も向上した。まだグラフィック能力が乏しい時代に私が始めたコンピュータ・プログラミングも表現の幅が広がり、mapRaster2 や imageRaster などのソフトウェアとなった。当初はメッシュ統計（つまりマス目のデータ）を表示することを意図した mapRaster2 だったが、土地利用や地形（数値標高モデル）、衛星画像なども表示に使うようになった。これらはすべて格子の

マス目であり、情報処理の世界では点の座標によって形状を表すベクトル型に対し、ラスタ型と呼ばれる。以前は高価だった衛星画像もネットで無料でダウンロードできるようになり、数値標高モデルも国土地理院や JAXA のものが利用できるようになった。世の地理情報システムは、どちらかといえばベクトル型を主な対象とするようだが、私が今もラスタ型を好んで扱っているのは、子供のころの原体験に根ざしているのであろうか。奈良大学・奈良女子大学に奉職した後、京都大学の人間・環境学研究科に 22 年間勤め、今年定年退職を迎えた。地理学だけでなく、主に理系学部学生にプログラミングを教える機会を持てたことも、よい思い出である。関係する皆様に改めて感謝申し上げます。



mapRaster2 で描いた京阪神地区の地形と人口分布を表すモデル

地理学とまちづくり

中川あゆみ*

はじめに

私は2011年3月に学部を卒業しました。新入社員の方が10つ以上若いことに驚く今日この頃です。

私が京都大学文学部入学を志したのは、アフリカの勉強をするためです。当時、「人文地理学」という学問があると知り地理学研究室に入りたいと思いました。京都大学では多くの良い出会いがあり、地理学研究室に感謝の気持ちでいっぱいです。

大学時代の思い出

アフリカに対してやる気満々で入学はしたものの、体育会系のウインドサーフィンの部に入部してしまい、土日は全て練習、平日も授業を休んで自主練習、活動にお金がかかるため早朝と夜は猛烈にバイト、という生活で、授業にあまり出席していませんでした。お金もなく在学中はアフリカも行きませんでした。

卒業論文では、彦根市をフィールドに「大型店舗の来店と商店街の変容」というテーマで研究しました。当時はロードサイド型の大型店舗に客がとられて、中心市街地の商店街が空き店舗化しており中心市街地の空洞化が問題だ、と、多くの地方都市で言われていました。

「商店街って必要なのか?」「必要ならど

うやって大型店舗と共存したらいいのか?」を知りたくて、彦根市の花しょうぶ商店街の方と一緒に活動したり、商工会議所や㈱平和堂の方にインタビューしたり、大学の図書館で公共政策系の本を読んだりしていました。

大学生時代は色々と知ること・体験することが楽しくて、研究としてはまとまりませんでした。ただ、研究を通じて、自分の商売と自分のまちのために働く商店街・団体・企業の方と多く出会ってかっこいいと思ったので、私もそういう人たちを支える仕事がしたいと思いました。

社会人になって

私は小田原市役所に就職しました。人口20万人の城下町で商店街主催のイベント等も盛んで、これから面白くなりそう!と思って試験を受けたら採用して頂きました。小田原市に感謝。

公務員は暮らしも仕事も、忙しかったけれどとても楽しかったです。

一市民としては、商店街団体の「まちなか市場実行委員会」に入って朝市や夕市の企画、工学院大学と連携したプレイスメイキングの取組…、個人で小田原まちあるきを主催…等々楽しく暮らしていました。公務員は、まちのために頑張るメリットが他人

* 株式会社フジタ、2011年卒

にとってわかりやすく溶け込みやすいので、いい職業だと思いました。

また、市役所の仕事は面白かったです。水道局と企画部に長くいましたが、水を売る商売から始まり、総合計画づくり、廃校活用も経験して、責任の重さを感じました。そして限界も感じました。

「まちの人たちを支える」ため、自治体職員にしかできないことがいくつかあり、その一つは、公有財産の有効活用だと思います。「公民連携手法（PPP・PFI）で公有財産の有効活用！」と世の中ではいうけれど、民間で実践して正しく理解したいと思いました。

そして建設企業に転職しました。現在PFI 事業に携わって4年目です。会社に感

謝。

部署名は営業第三部官民連携（PPP・PFI）推進チームです。提案コンペへの参画や、自治体やコンサル企業からのヒアリングの対応をしています。元自治体職員だった経験を生かして、川上の段階から頼りにして頂けるような人になりたいのでこれからも頑張ります。

まとめ

アフリカからまちづくり、公民連携へと関心ごとは変化してきましたが、地理学研究室で育んだ「面白がるアンテナ磨き」と「変化を楽しむ心」を胸にストレス社会を乗り切っていきたいです（笑）。

読んで頂きありがとうございました。



小田原まちなか市場の仲間たち

「学問の都」に戻って思うこと

埴淵知哉*

京都大学に着任したことで、大学院生およびポスドクとして過ごして以来、十数年ぶりに京都で暮らすこととなった。コロナ禍にあった過去三年間の京都をほとんど知らない私にとって、京都は相変わらず観光客で混雑している観光都市であり、数々の歴史的建造物や文化遺産に囲まれた歴史都市のままであった。また地理学教室の研究室や実習室も院生として在籍した当時と大きくは変わっておらず、その意味で「やって来た」というよりも「戻ってきた」という感覚が強い（ただし自分の研究室は東館にあるため新しい場所に迷い込んだ感覚もある）。

もちろん、まだ京都に来て一月余りではあるが、気づいた変化もいろいろある。たとえば、あちこちの道路には自転車レーンのペイントがみられるようになった。「！」と自転車を重ねたようなピクトグラムには戸惑ったが、自転車に乗る身としては嬉しい変化である。また、公園や街なかで犬を散歩させている人が増えたり、誰かに道を尋ねられる機会が減ったりしたとを感じる。交差点の曲がり角に置かれている不自然な石が目に残まるようにもなった。これらの一部は、おそらく事実である。自転車レーンに関しては明らかな変化であるし、迷う人が減ったのは現在地がすぐにわかるスマートフ

ォンの普及によるのかもしれない。一方で、犬の散歩や曲がり角の石（これを「いけず石」とよぶことを数年前に初めて知った）に関しては、おそらく私の見方が変わったことが理由だろう。以前住んでいた時には、周辺の山の緑や川の流れにも特に意識が向くことはなかった。その後、様々な都市で暮らした経験が京都に対する見方を変えたのである。いずれにしても、京都をまた新しい目で見てその変化を感じられるのは、自分にとって新鮮な体験となっている。

ところで、観光や歴史と並んで京都には「学問の都」としての顔もある。コロナ禍では少し違ったかもしれないが、多くの学生・院生や研究者が大学・研究機関に日々集まり、勉学に勤しみ研究に没頭している様子は、この都市ではありふれた景色といえるはずだ。大学や研究機関の関係者に限らず、京都が学生のまち・学問の都であることはよく知られた事実であろう。大学院生になって初めて京都に移り住んだとき、夜中まで大学に残っていたり学外で研究の話題を話したりしても違和感をもたれないことが新鮮であった。ここでは研究が当然のこととして受け入れられているという感覚は、強く印象に残っている。そこに自分もいるのだというある種の場所感覚は、研究人生を歩み始めたばかりの自分にとって心地良

* 京都大学文学研究科地理学専修准教授，2004 年修士，2007 年博士

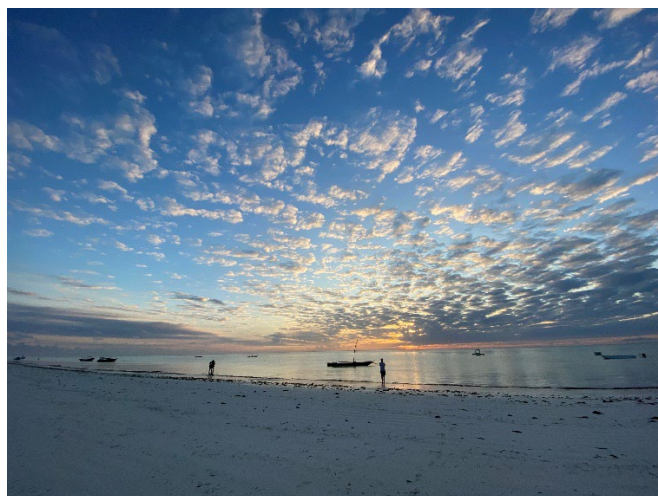
く感じられたからだ。同じく「学都」とされるボストンや仙台での暮らしも経験したが、こうした実感を抱いたのは京都のみだったように思う。

地理学者に限らず、自宅や職場（大学・研究機関）のある場所は、生活のみならず研究においても重要である。日々の暮らしで接する都市や地域から何を感じ取り、そこからどのような問題意識を育むのか。地理学では土地勘のある地域をフィールドに選ぶことも多いと思われるが、これは理にかなった判断だといえる。ちなみに私は、卒業論文で日本の都市システムという都市の階層性や都市間の結合関係にかかわるテーマを選んだ。対象地域は全国というマクロな範囲であったため、居住地は無関係にみえるかもしれないが、問題意識の出発点には出身地での経験があった。実家は地方の県庁所在地からも離れた場所にあり、また小中高の学校区では常にその周縁部寄りに位置していたため、通学距離は進学とともに延びていった（ちなみに 0-100 点で歩きやす

さを示すウォークスコアは「4」である）。より高次の都市機能はより遠くにある、という体験（通学だけでなく買物や娯楽も同じ）が先にあり、それに対する説明を与えてくれたのが都市システム論や中心地理論だった。

大学の社会貢献や地域貢献が求められる時代にあって、その立地はなおさら重要になるはずだ。しかし現実には、大学の立地はそういった研究そのものへの影響とはおよそ無関係の政策に翻弄されてきた経緯がある。1970 年代以降の「工業（場）等制限法」による地方分散・郊外移転、2000 年代以降の規制緩和を受けた学生獲得競争による都心回帰、そして東京一極集中の是正と地方創生を目的とした 23 区の学部・学科新增設および定員増の抑制（さらにその解禁と修正をめぐる最近の動き）などである。京都もそういった動向と無縁とはいえないが、変わらず「学問の都」として、この街にいる学生や研究者の好奇心と想像力を喚起してくれる場所であってほしいと思う。

~~~~~



インド洋の夜明け（2022 年卒，修士課程・石川聡一郎撮影）

## 2022 年度活動報告

### ■秋季談話会（OB 交流会）

2022 年度の秋季の談話会として、11 月 5 日（土）に OB 交流会をオンラインで開催しました。

卒業生からの話題提供として、中村尚弘先生（2000 年卒，University of the South Pacific）、猪原章さん（2016 年卒，読売新聞社）、香川絵里さん（2008 年卒，タイ国東京海上火災保険）より、近況報告や在校時の思い出について、お話いただきました。

話題提供の後は、オンライン上でグループにわかれ、またグループを入れ替えながら、交流を深めました。フィジーやタイの卒業生と会話することができ、オンラインならではの交流会となりました。

幹事をつとめてくださった在校生の皆さん（博士後期課程：柴田将吾，修士課程：倉田瑞希）に、お礼申し上げます。

### ■春季談話会（論文発表会）

卒論・修論発表会についても、昨年にひきつづき予餞会はとりやめ、2 月 4 日（土）に論文発表会のみオンラインで開催しました。卒業論文 14 名，修士論文 3 名の発表が行われました。

司会や時計係をつとめてくださった在学生の皆さん方がた（博士後期課程：堀川泉・柴田将吾，修士課程：倉田瑞希・小池野々香・重永瞬）にお礼申し上げます。



ザンジバル・ストーンタウンの扉（2022 年卒，修士課程・倉田瑞希撮影）

## 研究室便り

### ■地理学専修の動静

2023 年 3 月をもって、水野一晴教授が退職しました。また 4 月に埴淵知哉准教授が着任しました。本年度（2023 年度）の専修主任は引きつづき米家泰作教授が、また専修の事務は三上純子さんが務めています。

昨年度末（2023 年 3 月）には 13 名の学部卒業生、3 名の修士修了生、3 名の博士修了生を送り出しました（ほか 1 名の課程博士認定）。本年度（2023 年 4 月現在）は、博士後期課程 3 名、修士課程 12 名、4 回生 34 名、3 回生 21 名が在籍しています。

2022 年度の実習旅行は、10 月 24 日から 27 日にかけて、鳥取県倉吉市で実施しました。3 回生 8 名、2 回生 14 名が参加しました。直近 2 年にわたり、コロナ禍に留意して調査地を選定していましたが、今回は履修生の提案のなかから調査地を選定するという従来の方式に戻すことができました。本年度（2023 年 10 月）は新潟県糸魚川市を調査地として予定しています。



倉吉市打吹玉川伝統的建造物群保存地区を学ぶ

### ■卒業生・修了生の進路

#### □学部

安藤 颯汰 西日本高速道路株式会社

池田 雄士 京都大学文学研究科（修士課程）

小林 夕莉 京都大学文学研究科（修士課程）

谷野 里空 株式会社モンベル

千代 航大 東京都庁

土居野 溪心 Corporate Directions, Inc.

西山 幸志 NTT ドコモ

原 万尋 京都大学文学研究科（修士課程）

矢野 陽平 森ビル株式会社

#### □修士課程

牛田 聡実 楽天グループ株式会社

出口 大貴 国土交通省

#### □博士後期課程

金 玗熙 慶熙大学校非常勤講師

桑林 賢治 京都大学非常勤講師

神品 芳孝 京都大学非常勤講師

※掲載に同意いただいた方のみご紹介しています。

### ■新メンバーの自己紹介

2022 年 4 月に 3 回生に進級して、地理学専修に所属した方々、そして新しく大学院に入学した方々からいただいた自己紹介文を掲載します。

#### □3 回生

生地 涼太郎

3 回の生地（いくじ）です。富山県高岡市出身です。富山県には生地という地名があるので、名前の由来はそこから来ているのだと思います。畑作とドライブを趣味にしています。よろしくお願いします。

宇野 総一郎

高校の担任がここの地理学専修であったため、その薫陶？をうけて本専修を希望しました。大学に入ってから人見知りになったので、話しかけることは少ないですが仲良くしてください。基本的にずぼらで向上心も控えめなので、ご迷惑をおかけするかもしれませんが宜しくお願いします。

小仲 美齡

小仲美齡と申します。最近地図に訪れた場所を保存しています。忘れやすい自分よりは堅固な場所に結び付けて、将来まで残るよう思い出を補強しているのかなと思います。実家付近は住宅地建設でどんどん変わっていきます。「都市は巨大な外部記憶装置」(攻殻機動隊 イノセンス)

小柳 慶汰

私は空間経済学を学んでいます。たとえば歴史をやり直してみると、首都は東京ではなくなるかもしれません。しかし人口の大都市への集中という集積の様相は変化するでしょうか。こうした「集積」の問題に数理的なアプローチをとることに関心があります。

坂下 遼

3回生の坂下遼です。淡路島出身の島人です。アウトドアサークルに入っていて、夏場にはよく登山をしています。関連して旅行が好きで、長期休暇はほとんど京都にいません。他にも野球は観るのもやるのも好きで、昔から阪神ファンです。皆さんと仲良くしたいです！よろしくお願いします！

佐貫 俊介

広島出身の佐貫俊介です。コレが勉強したい！というものはまだボンヤリとしていて決めきれていないのですが、民俗学が好きで、宗教や習俗が好きなので、そういった分野と関係するものを学びたいと思っています。よろしくお願いします。

庄子 凜

東京都大田区出身です。趣味は旅行……というより移動です。地理の分野としては、メインの関心事が都市で、都市防災やジェントリフィケーションが最近は気になっています。Photoshop や Illustrator は一応5年以上使っていてそれなりに使えますので何かあればお気軽にお申し付けください。

周藤 紗季

3回生の周藤紗季と申します。福岡県福岡市出身です。スポーツ全般好きで、小学校から10年間サッカーをしていました。大学では陸上部に入って毎日練習しています。旅行や地図が好きで地理学専修を選択しました。よろしくお願いします。

田中 彩野

3回生の田中彩野です。長野県長野市出身です。この4月に法学部から文学部へと転学部してきました。転学部した理由は、古地図と現在の地図との比較を通じて町の形成過程を知ることの面白さに惹かれたからです。不慣れな点もありますがよろしくお願いします。

西岡 大

はじめまして。地理学専修に所属しました西岡大です。千葉県船橋市の出身で、関西には縁もゆかりもなかったのですが京都に来ました。梨は好きです。趣味は野球観

戦です。旅行もたまに行きます。よろしくお願いします。

西田 篤弥

はじめまして。西田篤弥です。広島県広島市の出身です。広島県北部の人口減少が進んでいるところに親戚が多く住んでいることもあり、過疎地域に関心があります。いろいろなまちに行ってみるのが好きです。よろしくお願いします。

花崎 遥也

3回生の花崎遥也です。生まれは大阪、育ちは東京で、小中高と野球をやっていました。趣味は旅行と野球観戦、麻雀、読書です。醸造業の立地や展開、インフラや都市計画に興味があります。よろしくお願いします。

原田 隼

新3回の原田隼です。群馬県高崎市出身で、地方都市・農村、防災などに興味があります。京都大学マンドリンオーケストラに所属していて、楽器弾いたり指揮振ったりしています。旅行や温泉に行くのが好きです。よろしくお願いします。

百田 壮真

3回生の百田壮真です。出身は兵庫県の播磨町です。趣味は旅行で、島（とくに瀬戸内海）をよく訪れています。絵を描くことやスポーツ観戦、舞台鑑賞等も好きです。サークルでは漫画やアニメの評論を書いています。よろしくお願いします！

平井 美帆

はじめまして、平井美帆と申します。神奈川県逗子市出身です。京大オケでバイオリンを弾いています。神社仏閣が好きでちょこちょこ巡っています。コロナ明けですし、今年は海外旅行に挑戦してみたい

です。これからどうぞよろしくお願いします！

細井 建希

初めまして、細井建希です。広島県広島市出身です。スポーツ全般好きで、小2からサッカーをしており、サークルでは、サッカーとアカペラをしています。また、幼い頃から世界地図を眺めるのが好きで、あーここ行ってみたい、なんてことをいつも考えています。よろしくお願いします。

本城 正樹

新3回生の本城正樹です。熊本の天草市出身で育ちは京都市内です。何処かに出かけていることが多いです。ただ車の免許取得中のため、専ら公共交通を乗りつぶしている旅行が主です。今後ツーリングとかできたらいいなと感じてます。

前岡 大貴

お初にお目にかかります。前岡大貴と申します。出身は奈良県の吉野という場所です。高校時代の地理の授業で地理の面白さを知り、ここで地理学を修めたいと思いました。自然地理学を研究したいです。バンジョーというアメリカの民族楽器を弾いてます。よろしくお願いします。

三輪 花音

新3回生の三輪花音と申します。兵庫県出身です。こども食堂を中心に、小中高生と交流する団体に所属しています。京都の風情ある景色と夕空を眺めることが好きです。よろしくお願いいたします。

山岸 哲平

新しく地理学専修に分属した山岸哲平です。高校では地理は履修していませんでしたが、普段私たちが生活する地域がど

ういう特性を持っていて、どういう経緯で成り立ち、またどういったかたちで私たちの生活に影響を与えているのかに興味を持ち、地理学を選びました。これからよろしくお願いします。

米谷 知洋

大阪府箕面市出身。サークルでは、白馬村で住み込みバイトをしながらスキーをしています。計算すると、今シーズンは70日間滑ってました。幼少期から地図を見たり描いたりするのが好きでした。他には、漢字、熱帯魚、作曲（楽器弾けない）、秘境駅訪問などが趣味です。

□修士課程

宰川 玲

京都府向日市出身の宰川玲と申します。高校で地理に触れる機会は無かったので、京都府大歴史学科で地理学に出会い、本年からは京都大学で学ぶことになりました。根っからの阪神ファンです。よろしくお願いします。

信清 清通

修士1回生の信清清通と申します。神奈川県鎌倉市出身です。慶応文学部在学中より地理学に興味があり、こちらの専修でお世話になることとなりました。趣味は映画鑑賞です。よろしくお願いします。

## ■大学院生らの研究状況

2022年度の院生らの研究成果を報告します。前号より、査読論文以外に執筆したものや、学会発表を含め、前年度1年間の成果を記しています。

□学術論文

김현희(金炫熙), 水野一晴, 공우석, ‘AWS 관측자료로 분석한 한국 도서지역 기후

특성, 한국기후변화학회지 13(4), 2022.8, 399-408.

(AWS 観測資料で分析した韓国島嶼地域の気候特性, 韓国気候変化学会誌)

高原佳穂・河本大地「地域学習における学校と地域との連携 ―京都府南丹市美山町にあった小学校を事例として―」, 奈良教育大学ESD・SDGsセンター研究紀要1, 2023年3月, 31-39頁.

□学会発表

柴田将吾「木村兼葭堂における地理的知識の形成と活用」, 人文地理学会大会, 2022年11月20日, 佛教大学

河本大地・柴田将吾・菊川翔太・小林夕莉・森下航平・高原佳穂「農山村地域の学校統廃合に伴う地域学習体系の再構築とそのマネジメント―京都府南丹市美山町の小・中学校における「美山学」の事例から―」, 同上

김현희(金炫熙), 한반도 주변 도서지역 기후 특성, 한국기후변화학회, 2022.6.24, 고려대학교

(朝鮮半島周辺の島嶼地域の気候特性, 韓国気候変化学会, 高麗大学校)

김현희(金炫熙), 대나무류 저온 피해 현황과 원인, 대한지리학회, 2022.6.25, 경희대학교

(竹類低温被害の現状と原因, 大韓地理学会, 慶熙大学校)

KIM Hyunhee, “Distribution of trees in the island region of the Korean Peninsula,” Centennial Congress of the International Geographical Union, 18 July 2022, Sorbonne University, Paris.

KOSHINA Yoshitaka, “Changing perception of woodlands around

farmyards and woodlands in  
agglomerated settlements in Kanto  
Plain,” *idem*.

TATEISHI Wakana, “Vegetation  
distribution in relation to environments  
in alpine meadows in Rebun Island,  
Japan,” *idem*.

KAWAI Amame, “The mutual relationship  
between local community and specially  
charted small school in Okishima Island in  
Lake Biwa,” *idem*.

小池野々香・柴田将吾・東優大・池田芽生・  
高原佳穂・大澤淳平・水垣はるか・河本大  
地「柿産地としての奈良県五條市の形成  
—「日本一の柿のまち」ができるまで—」,  
日本地理学会春季学術大会, 2023 年 3 月  
25 日, 東京都立大学

河本大地・重永瞬・菊川翔太・森下航平・西  
山幸志・渡邊一輝・小林夕莉・石川聡一  
郎・原川優羽紀・高原佳穂「柿産地として  
の奈良県五條市における生産・流通と担  
い手—「日本一の柿のまち」の課題と可能  
性—」, 同上

立石和奏「北海道礼文島におけるお花畑の  
植生分布と立地環境」, 同上

※共著・連名の場合, 下線は地理学専修の学生・  
院生を示す。

## ■2023 年度講義題目

□講義（行動・環境文化学系共通科目）

講義 I 地理学の成立と展開／米家泰作

講義 II 地理学の最前線／埴淵知哉・杉江  
あい

□特殊講義

地理学特殊講義／池谷和信（国立民族学博  
物館）

流通・経済地理学／土屋 純（関西大学）

地理情報科学及びその具体的な手法につい  
て理解を深める／花岡 聖（立命館大学）  
ヘリテージの地理学／山本理佳（立命館大  
学）

人間と自然の関係性の理解／大山修一（京  
都大学）

自然生態論 I／小坂康之（京都大学）

現代中国の都市農村関係／小島泰雄（京都  
大学）

紀伊山地の歴史地誌—山村と森林の歴史地  
理学—／米家泰作

日本帝国と地理的知の諸問題／同上

地理的なデータの収集と分析／埴淵知哉

地図を通してみる都市の諸相／同上

地誌の歴史と現代的意義／杉江あい

バングラデシュの動態地誌：国家・開発・経  
済／同上

湿潤変動帯の自然地理学とその応用として  
の斜面減災論／松四雄騎（京都大学）

人新世における「自然の地理学」の可能性／  
中島弘二（金沢大学）

災害の地理学／松多信尚（岡山大学）

□演習

演習 I A・地理学研究法 1A／米家泰作・埴  
淵知哉・杉江あい

演習 I B・地理学研究法 1B／同上

演習 II A・4 回生演習 2A／同上

演習 II B・4 回生演習 2B／同上

地域の諸問題／同上

農村開発と内発的発展論／小島泰雄（京都  
大学）

□講読

英書講読 I／杉江あい

英書講読 II／埴淵知哉

## □実習

地理学実習／米家泰作・埴淵知哉・杉江あい

※所属の注記がない教員は、地理学専修の専任教員です。

## ■会員からの寄贈図書

昨年度、地理学専修にご寄贈いただいた図書の一覧です。寄贈してくださった談話会会員の皆様に、厚く御礼申し上げます。これらの図書は、文学研究科図書館または地理学専修学生共同研究室に配置し、学生ならびにスタッフの研究・教育に活用させていただきます。

なお本専修には様々な機関からの寄贈雑誌が多いため、前号より談話会会員からの寄贈図書に限定して記載しています。

- ・ カリフォルニアの日系移民と灌漑フロンティアーサンホアキンバレーにおける農業地域と多民族社会の形成／矢ヶ崎典隆
- ・ 中国東北「辺境」の重工業と食糧基地／関満博
- ・ 境界の政治地理学：境界は動くのか／田邊裕
- ・ 微笑みの人―樋口節夫先生追悼文集―／樋口節夫先生追悼文集刊行委員会
- ・ トナカイの大地、クジラの海の民族誌：ツンドラに生きるロシアの先住民チュクチ／池谷和信
- ・ アイヌのビーズ：美と祈りの二万年／池谷和信
- ・ 地図で読み解く奈良／浅田晴久
- ・ 人間の営みがわかる地理学入門／水野一晴
- ・ 名古屋発 日帰りさんぽ／溝口常俊
- ・ おいしい京都学 料理屋文化の歴史地理

／加藤政洋・河角直美

- ・ 特別展図録 地図の最前線一紙の地図からデジタルマップへー／神奈川県立歴史博物館
- ・ 近鉄沿線の近現代史／三木理史
- ・ 自由の地域差：ネット社会の自由と束縛の地理学／福井一喜
- ・ 全国棚田ガイド：TANADAS／棚田ネットワーク
- ・ 韓国・檀君神話と英彦山開山伝承の謎／長野寛・朴成寿
- ・ 中国前近代の関津と交通路／辻正博
- ・ 世界遺産の日本史／佐藤信
- ・ 地図と印刷 MAP and PRINTING／印刷博物館
- ・ 写真資料にみる 1950 年代沖縄の社会と景観／加藤政洋・河角直美・前田一馬
- ・ なぜ、日本には碁盤目の土地が多いのか／金田章裕
- ・ 帝国日本と森林―近代東アジアにおける環境保護と資源開発／中島弘二
- ・ 地理学者、発見と出会いを求めて世界に行く！／水野一晴
- ・ 小気候：局地気象学序説／吉野正敏
- ・ 人文地理学研究／小川琢治
- ・ 断層地形論考／辻村太郎
- ・ 人文地理学概論／ハンチングトン
- ・ 庄川峡の変貌：越中五ヶ山の今と昔／小寺廉吉
- ・ 経済地理学原論／黒正巖
- ・ 人文地理学説史 地理学批判／飯塚浩二
- ・ 人文地理学 地理学と歴史／飯塚浩二
- ・ 帝都と近郊／小田内通敏
- ・ 聚落形態論／綿貫勇彦
- ・ 人文地理学／ブリュンヌ
- ・ 日本郷土学／小田内通敏

- ・ 人文地理学と文化景観／国松久弥
- ・ 地政学／岩田孝三
- ・ 経済地理／国松久弥
- ・ 人文地理学の基礎知識／イエノエ
- ・ 日光附近の地誌／山口貞雄
- ・ 太平洋民族誌／松岡静雄
- ・ 世界地理行脚／寺田貞次
- ・ 瀬戸内百図誌／綿貫勇彦
- ・ 日本風景読本／風景協会
- ・ 日本地政学／小牧實繁
- ・ 地理の本質と方法／三野与吉
- ・ 郷土地理研究／小田内通敏
- ・ 山のこなた／内田寛一
- ・ 日本地政学宣言／小牧実繁
- ・ 日本の景観／辻村太郎
- ・ 平野の地形環境／日下雅義
- ・ 歴史時代の地形環境／日下雅義
- ・ 風土のよこがお／関口武
- ・ 集落の社会地理／堤正信
- ・ 日本地理学史／藤田元春
- ・ 古地図と邪馬台国：地理像論を考える／弘中芳男
- ・ 経済地理学／山名伸作
- ・ 古層の村：沖縄民俗文化論／仲松弥秀
- ・ 風土の日本：自然と文化の通態／ベルク
- ・ 経済地理学基礎理論／レンナー
- ・ 服装の地理：身を飾る人間／別技篤彦
- ・ 平家の谷：秘境秋山郷／市川健夫
- ・ 人口地理学／ジョルジュ
- ・ 外国地理資料／田中啓爾
- ・ 国境いの村／安藤慶一郎・矢守一彦
- ・ 埋れた港／千田稔
- ・ 丹波路／竹岡林
- ・ 輪中／伊藤安男・青木伸好
- ・ 幻のケン・エイ族／大島襄二
- ・ 気候と文明／ハンチントン
- ・ 大陸と海洋の起源：大陸移動説／ヴェーゲナー
- ・ 世界探検史／サイクス
- ・ 洞窟絵画から連載漫画へ：人間コミュニケーションの万華鏡／ホグベン
- ・ 北越雪譜／鈴木牧之
- ・ 人文地理／ラヌー
- ・ 人文地理研究法入門／石田龍次郎
- ・ 文化地理学／辻村太郎
- ・ 人生地理学／牧口常三郎
- ・ 先史地理学序説／中川徳治
- ・ 日本の都市化／木内信蔵
- ・ 気候順応／能登志雄
- ・ 日本の集落／矢嶋仁吉
- ・ 世界の農業地理／ジョルジュ
- ・ 都市と農村／シャリエ
- ・ 地理空間／ドルフュス
- ・ 経済地域に関する諸問題の研究／内田寛一
- ・ 社会地理学／井上長太郎
- ・ 人類と文化／ウキスラー
- ・ 人類地理学／クレープス
- ・ 武蔵野の集落／矢嶋仁吉
- ・ 南方圏の気候／福井英一郎
- ・ 領土・民族・国家／チェレーン
- ・ 千葉県の地誌／尾崎帛四郎
- ・ 支那旅行日記／リヒトホーフェン
- ・ 数理地理学／小川琢治
- ・ 日本群島／小川琢治
- ・ 一地理学者之生涯／小川琢治
- ・ 戦争地理学研究／小川琢治
- ・ 日本を中心とせる輓近地理学発達史／山口貞雄
- ・ 日本地理図集／西田與四郎・帷子二郎
- ・ 郷土地理研究／内田寛一
- ・ 地理学の本質と原理／田中啓爾

- 日本の風土：その地理学的研究／立命館大学文学部地理学研究室
- 地理学方法論：地理学の性格／ハーツホーン
- 日本地形誌／辻村太郎
- 自然地理学／岡山俊雄・吉村信吉
- 都市の立地と発展／クリスタラー
- 景観地理学講話／辻村太郎
- 地形学／辻村太郎
- 太平洋地政学／ハウスホーファー
- 郷土の地理的研究法／佐々木清治
- 支那と中央アジア／リヒトホーフェン
- 村の人文地理／佐々木彦一郎
- 国土の開発／西水孜郎
- 市場集落／中島義一
- 人文地理六講／佐藤弘
- 西洋又南洋／山崎直方
- 沿岸漁業の地理学的研究／新宅勇
- 日本近世の地理学／辻田右左男
- 漁村の地域的研究：水産地理学への道標／柿本典昭
- 地理学史の研究／鮎沢信太郎
- 日本地図史／秋岡武次郎
- フランス文化の歴史地理学／プラノール
- 人生地理学／牧口常三郎
- ソビエト連邦の地理／ジョルジュ
- 地理学史／クロジェ
- 消費の地理学／ジョルジュ
- El Códice de Xicotepec: estudio e interpretación / Guy Stresser-Péan
- Uneven development: nature, capital, and the production of space / Neil Smith
- Glaciers, Nature, Water, and Local Community in Mount Kenya / Kazuharu Mizuno and Yuya Otani
- Suye mura: a Japanese village / John F. Embree
- Village Japan / Richard K. Beardsley, John W. Hall, and Robert E. Ward
- Mental maps / Peter Gould and Rodney White
- The environmental revolution: a guide for the new masters of the world / Max Nicholson
- Humanistic geography prospects and problems / David Ley and Marwyn S. Samuels
- Readings in social geography / Emrys Jones
- A dictionary of geography / F. J. Monkhouse
- Tourism - passport to development?: perspectives on the social and cultural effects of tourism in developing countries / Emanuel de Kadt
- A dictionary of geography: definitions and explanations of terms used in physical geography / W.G. Moore
- The making of the English landscape / W. G. Hoskins
- A land / Jacquetta Hawkes
- The geography of recreation and leisure / Isobel Cosgrove & Richard Jackson
- Habitat, economy and society: a geographical introduction to ethnology / C. Daryll Forde
- Maps and their makers: an introduction to the history of cartography / G. R. Crone
- Maps & man: an examination of cartography in relation to culture and civilization / Norman J. W. Thrower

- Maps: a historical survey of their study and collecting / R. A. Skelton.
- Dimensions of human geography: essays on some familiar and neglected themes / Karl W. Butzer
- A geography of tourism/ H. Robinson
- Land and leisure / J. Allan Patmore
- The geography of African affairs / Paul Fordham
- Surviving the city: A sourcebook of papers on urban livability / John Gabree
- Man's role in changing the face of the earth / William L. Thomas, Jr.
- Principles of human geography / Ellsworth Huntington
- The tropical world: its social and economic conditions and its future status / Pierre Gourou
- Megalopolis: the urbanized northeastern seaboard of the United States / Jean Gottmann
- Land and life: a selection from the writings of Carl Ortwin Sauer
- Ideology, science and human geography / Derek Gregory
- Geography and geographers: Anglo-American human geography since 1945 / R.J. Johnston
- Human geography: evolution or revolution? / Michael Chisholm
- Allgemeine Anthropogeographie: eine Einführung / Hermann Hombach
- Maps: topographical and statistical / T.W. Birch
- Agricultural systems in Tamil Nadu: a case study of Peruvallanallur village / Yoshimi Komoguchi
- Progress in historical geography / Alan R. H. Baker
- The Interpretation of ordinary landscapes: geographical essays / D. W. Meinig
- Radical geography: alternative viewpoints on contemporary social issues / Richard Peet
- Physical and information models in geography: parts I, II, and V of Models in geography / Richard J. Chorley and Peter Haggett
- All possible worlds: a history of geographical ideas / Preston E. James
- Man, space, and environment: concepts in contemporary human geography / Paul Ward English and Robert C. Mayfield
- Geography: a modern synthesis / Peter Haggett
- Man made the land: essays in English historical geography: a series from the Geographical magazine / Alan R.H. Baker and J.B. Harley
- Readings in cultural geography / Philip L. Wagner & Marvin W. Mikesell
- An introduction to behavioural geography / John R. Gold
- Cultural geography: an evolutionary introduction to our humanized earth / J.E. Spencer and William L. Thomas
- A hundred years of geography / T. W. Freeman

## 事務局から

### ■2022 年度会計報告

(2022 年 4 月 1 日～2023 年 3 月 31 日)

#### 【資金会計】

##### <収入>

|        |         |
|--------|---------|
| 年会費    | 140,500 |
| 寄附金    | 0       |
| 利子     | 0       |
| 前年度繰越金 | 271,049 |
| 計      | 411,549 |

##### <支出>

|          |         |
|----------|---------|
| 運営会計への振替 | 91,225  |
| 郵便振替手数料  | 8,161   |
| 次年度への繰越  | 312,163 |
| 計        | 411,549 |

#### 【運営会計】

##### <収入>

|           |        |
|-----------|--------|
| 資金会計からの振替 | 91,225 |
| 秋季懇親会会費*  | 0      |
| 春季懇親会会費*  | 0      |
| 計         | 91,225 |

##### <支出>

|             |        |
|-------------|--------|
| 秋季懇親会*      | 0      |
| 講師交通費**     | 0      |
| OB 交流会経費**  | 0      |
| 春季論文発表会経費** | 0      |
| 会報等印刷費      | 12,000 |
| 会報製本費用      | 0      |
| 通信・文具等費     | 79,225 |
| 弔電・供花等      | 0      |
| 計           | 91,225 |

\*開催なし

\*\*オンライン開催

### ■会費納入のお願い

一年あたり千円を目処として、会員の方々に談話会の運営経費へのご協力をお願いしております。納入の際は、郵便振替または銀行振込をご利用ください（本会報を郵送で受け取られる会員には「郵便振替用紙」を同封しています）。

みずほ銀行出町支店（普）

1143293 チリガク ダンワカイ

（チリガクとダンワカイの間にスペースあり）

郵便振替

01080 4 21457 地理学談話会

### ■訃報

前号掲載以降、逝去の報をいただいた方は、下記の通りです。

野澤 秀樹 （1964 年卒）

### ■談話会担当教員より

前号で触れましたように、運営の事務的な作業の軽減、ならびに印刷費・郵送費の軽減を目的として、談話会報の送付や事務局からのお知らせについて、メールで可とされるかどうか、各会員にお伺いして参りました。

本会報の送付時点で、事務局側で談話会報の送付やお知らせを差し上げている会員は 332 名おられます（京都大学に所属する会員を除く）。このうち、メールで可とのご意向が確認できた会員は、半数近くの 158 名となりました。多くの皆様に、ご理解・ご

協力をいただきましたことに、心より御礼申し上げます。ひきつづき、メールの利用にご理解・ご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

ところで、談話会報をメールでご案内することが可能である前提として、京都大学学術情報リポジトリ「紅」(KURENAI)における本会報の公開があります。公開によってアクセスが容易となり、利便性が高まる一方で、会報に記載された個人上の取り扱いについては、検討していくべき点があるようにも思います。新会員の自己紹介や

卒業生の進路にかかわる情報に関しては、その点に留意しながら、掲載に差し支えない文章や情報の提供をお願いしています。

また、これまで本会報では、「住所不明者についてお願い」として、住所不明の会員の氏名を掲載してきました。しかし、個人情報保護の観点から、今号から控えることといたします。会誌をご案内あるいは送付申し上げます際に、別途、お伝えすることといたしますので、ご諒解をお願い致します。

(米家記)

京都大学地理学談話会 会報 第34号

発行日 2023年6月18日

発行者 京都大学地理学談話会

〒606-8501 京都市左京区吉田本町 京都大学文学部地理学教室内

TEL: 075-753-2793 (直通)

発行所 京都大学文学部地理学教室

京都大学地理学談話会ウェブサイト

<http://www.bun.kyoto-u.ac.jp/geography/geo-danwakai/>

会報バックナンバー (京都大学学術リポジトリ「紅」)

<https://repository.kulib.kyoto-u.ac.jp/dspace/handle/2433/259238>